

☆星だより☆

2020年（令和2年）

11月26日

駅家小学校星組

一日参観日ありがとうございました

19日は、一日参観日でした。ご多用の中、お越しいただきありがとうございました。5校時は、道徳科の授業を参観していただきました。星組では、絵本のお話を通して道徳性・人と関わることの中の「友情」「思いやり」について考えました。

○「みんながおしえてくれました」（五味 太郎 絵本館）

ねらい：周りの友だちの良さに気づき、友だちからいろいろなことを学ぼうとする態度を育てる。

あらすじ：女の子がお散歩をしています。お散歩の途中で出会った動物にいろいろなことを教えられます。歩き方は猫に、気持ちのいいお散歩のし方はにわとりにと。そして、友だち・大人といろいろな人と出会い、その出会いを通して学び、成長していることに気付いていきます。



子ども達のつぶやき

わたしは、木の登り方はりすが教えてくれたと思ったけど、五味さんはさるだと思いました。

ぼくは、お父さん・お母さん・先生・友だちにいろいろなことを教えてもらっています。

私たちの周りには友だち・お父さん・お母さん・先生いろいろな人がいます。知らず知らずのうちに教えてもらって、いろいろなことができるようになっていくことに気づくことができました。周りの人の良さに気づき、学ぶ人になってほしいと願います。

○「りんごがひとつ」（ふくだ すぐる 岩崎書店）

ねらい：動物たちがサルの子どもの存在を知る前と後の言動から、相手のことを思って行動しようとする心情を育てる。

あらすじ：森の動物たちがお腹を空かせていました。そこへりんごがひとつ落ちていました。サルがりんごを取って、木から木へと逃げていきました。みんなは「まてー。」と追いかけてました。川を越え、崖を登って追いかけてました。とうとう行き止まり。りんごをひとりじめするなんて、みんなかんかんに怒りました。崖を飛び降りたふり

をしたサルの腕にはりんごと一緒にあかちゃんがありました。みんなは「やれやれ。」と帰っていきました。

子ども達のつづやき



おさるさんは、初めから「赤ちゃんがいるので・・・。」といえはいいのに。分かってくれる人はいないと思っていたんだ。

だれがいけないことをしても、いきなり責めるのはよくないと思いました。

自己中心的な言動やトゲのある言葉で相手を傷つけてしまうことがありがちな支援学級の子どもたちですが、今よりも相手を許せる気持ちや心がほっこりするような言葉を選んで発するようになればいいなと思います。そして、そういう自分が好きになってくれればと願います。

○「おこだでませんように」(くすのき しげのり 小学館)

ねらい：身近にいる人に、温かい心で接しようとする心情を育てる。

あらすじ：「ぼくは、いつでもおこられる。家でも学校でも…。休み時間に、友だちがなかまはずれにするからなぐったら、先生にしかられた」いつも誤解されて損ばかりしている少年が、七夕さまの短冊に書いた願いごとは『おこだでませんように』（書き終わったのは、いつものように一番最後だった）。先生に怒られると思ったけど、泣きながらほめてくれました。お母さんは、だっこしてくれました。たなばたさま、願いをかなえてくれてありがとう。

子ども達のつづやき



ぼくも、このようなことがありました。何回読んでも感動すると思いました。

ぼくへ
その気持ちはよく分かります。願いがかなって良かったですね。

自分ばかりが怒られている…と思わせるのではなく、大好きだから、大切に思っているから怒るんだよ、叱るんだよということを伝えていながら子どもたちと関わっていきたくて思いました。そして、自分のことだけでなく、星組の子、交流学級の子、周りのことを考えて行動できるよう、その都度声かけをしていきたくて思いました。